

# 「字義」に着目した漢字指導

度会郡南伊勢町立南島西中学校 山川 晃史

## 一 はじめに

現行の中学校学習指導要領（国語）によると、「漢字指導」については、次のように記述されている。（第一学年のみ）

ア 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち二五〇字程度から三〇〇字程度までの漢字を読むこと。

イ 学年別漢字配当表の漢字のうち九〇〇字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

この文言は、ともすれば、漢字が「読めて書ければいい」と誤解されやすい。

「漢字を読む」とは、漢字の意味がわかるということではなければならない。また、「文や文章の中で使わなければならない」「漢字を書く」ことにはならないのである。

## 二 漢字指導のあり方

「漢字指導」は「語彙指導」とリンクさせて行うべきである。まずは、言葉をどれだけ知っているか、語彙をどれだけ増やせるかが、重要な問題となる。

次に、「漢字が書ける」という目標に向かっては、生徒に次の三つのことを意識させるべきであると考ええる。

ア その漢字を読むことができる。  
イ その言葉の意味や使い方がわかる。  
ウ その漢字を書くことができる。

さらに、イとウの関係について、次のような区別を意識させることが重要である。

① その言葉の意味や使い方がよくわかっており、漢字でも書ける。

② その言葉の意味や使い方がよくわかっていないが、漢字で書けない。  
③ その言葉の意味や使い方があまい（知らない）であるが、漢字で書ける。  
④ その言葉の意味や使い方があまい（知らない）であり、漢字で書けない。

たとえば、「学習」という漢字をはじめて見たとき、「学習」という漢字は知らなくても、すでに「がくしゅう」という言葉を理解していれば、それを漢字で書くことは、比較的に容易である。しかし、「がくしゅう」という言葉の意味がわからない生徒にとっては、いきなりそれを漢字で書けと言われても困難である。まずは、「がくしゅう」とは、どんな意味で、どのような使い方をするのかということを理解することが大切なのである。

このように考えると、自分で自分の「語彙力」を意識し、知ることが、漢字を学習する

上で決定的に大切だと思おうのである。

また、「漢字指導」で考えるべきことに「音」と「訓」の問題がある。常に「音」と「訓」をセットにして学習することをもっと意識させるようにしたい。また、「訓」とは、読み方なのではなく「意味」であることも十分に理解させたい。

### 三 漢字の学習を「授業開き」で

四月当初、授業開きにおいて、次のような授業を行うことがよくある。

- ① 「セイ」と読む漢字一字をできるだけ考えてノートに書きなさい。
- ② 考えた漢字を生徒が発表する。
- ③ それらの漢字をどのようにして思いつきましたか。

「セイ」と読む漢字は、常用漢字だけでも三十文字以上ある。生徒からできるだけ多くの漢字を出させたい。もちろん、生徒に意識させたいのは、漢字の数だけではなく、③の活動にある。

③について、生徒からは大きく次の二点が出される。

- ・セイシユン⇨青春⇨「青」のように熟語を考えて思いついた。

・「青」⇨「清」、「精」、「請」のように似た漢字を考えて思いついた。

この二点は、多くの漢字を習得する上で、たいへん重要な観点である。

指導者は、生徒から出された意見とかわたって、次のような漢字の特徴を説明する。

- ・「表意文字」について
- ・「音読み」と「訓読み」について
- ・「形声文字」について

そして「漢字の学習」については、字を覚えるだけではなく、「表意文字」として意味を知ることが大切である。

・漢語（熟語）として、覚えていくとよい。ということの説明するのである。

### 四 「字義」を意識させる

現在、授業のはじめの五分間程度を使って次のような学習を行っている。

- ① 指導者が漢字一字を板書する。
- ② 生徒は、その漢字を使った二字熟語をできるだけ考え、ノートに書く。
- ③ 考えた熟語を生徒が発表する。
- ④ 指導者は、発表された熟語を板書する。
- ⑤ 指導者が、「白」の意味について解説する。

具体的な例を挙げる。

たとえば、「白」という漢字を板書する。

生徒からは、「白色」「白紙」「白状」「白昼」「空白」「純白」「告白」「明白」などの熟語が出されるだろう。

「白」という漢字の「訓」は、「しろ、しろい」であるが、「白」には、その他にも「何もない」「明るい」「言う」などの意味がある。指導者は出された熟語を「白」がどんな意味で用いられているかによって整理し、解説するのである。

生徒に考えさせる漢字は、できるだけ平易で、いくつもの意味をもつものがよい。

### 五 おわりに

漢字指導はどのようにあるべきか、まだまだ試行錯誤の状態ではある。

しかし、例に挙げたような活動を通して、難漢字を丸暗記するよりも、日常的によく使われる漢字にはいくつもの意味があることを知ったり、その漢字を使った熟語を知ったりすることの方が大切な学習であることを生徒に実感させたいと考えている。

やまかわ こうし 授業では生徒との「学習観」の違いに悪戦苦闘しています。新学習指導要領に基づき、どんな言語活動を仕組むのか考慮中です。